



中部電力パワーグリッド

第3回運用容量検討会 資料1-2



夏季・冬季熱容量の整理・公表 【検討結果】

2022年12月12日

中部電力パワーグリッド株式会社

はじめに

- 2021年度の運用容量検討会において、需給ひっ迫による緊急時運用容量への拡大に備えて、運用容量算出における架空送電線の冬季熱容量の確認および夏季熱容量の再確認を行うこととなった。
- その結果、夏季の熱容量は公表している値の変更はなく、冬季の熱容量は中部関西間連系線、北陸関西間連系線、関西中国間連系線の熱容量の値を確認した。
- 2022年度については、中部関西間（中部側）及び北陸関西間（北陸側）について、他の連系線と設計条件を合わせることが可能か、技術的な詳細検討を進めており、検討結果を報告する。

- 今回、冬季熱容量の適用期間について検討した結果、中部関西間、北陸関西間連系線において冬季期間の熱容量を以下に見直す。

 見直しを行う冬季熱容量
 見直しを行う冬季期間

連系線名	設備所有	冬季熱容量 (万kW)	決定要因	適用期間	周囲温度
中部関西間	中部	326	架空線（1回線容量） 三重東近江線 ACSR 410mm ² ×4導体	11~4月	25℃
	関西	326	架空線（1回線容量） 三重東近江線 ACSR 410mm ² ×4導体	11~4月	25℃
北陸関西間	北陸	326	架空線（1回線容量） 越前嶺南線 ACSR 410mm ² ×4導体	11~4月	25℃
	関西	326	架空線（1回線容量） 越前嶺南線 ACSR 410mm ² ×4導体	11~4月	25℃



中部電力パワーグリッド